

WEEKLY

一宮

題字 PG 安野謙次



重文「陵王」面 真清田神社蔵

Rotary
Ichinomiya



The Rotary Club of Ichinomiya

●例会日 木曜日 ●例会場 一宮商工会議所 ●承認日 昭和24年12月31日
●事務局 一宮市栄4-6-8 一宮商工会議所ビル5階 電話(0586)24-1931 ☎491-0858



世界に希望を生み出そう

URL: <http://rc138.org> E-Mail: rc138@lily.ocn.ne.jp

2023年11月30日 第3572回例会

会長 足立 誠 会長エレクト 佐々木久直
幹事 富田隆裕 副幹事 鶴飼雅弘
副会長 山上哲司 会報委員長 野村和弘

プログラム

クラブアッセンブリー

地区大会報告

ロータリーソング「四つのテスト」

第3570回例会の記録
2023年11月9日(木)

会長挨拶

足立 誠

本日の例会は、地区補助金のお話を地区補助金委員会委員長の藤野直子さんをお迎えして、して頂きます。

補助金の原資は、皆さんご存知の如くロータリアンお1人お1人のドネーションです。

仏教における「布施」も寄付(「喜捨」)の一種と考えられます。通常は、僧侶または寺院に対しての労働(経を読む、永代供養する等々)の対価と考えられがちですが、本来「布施(ダーナ)」とは、仏教の修行の上での徳目の1つ(6つの徳目の最初の1つ)であり、僧侶でも私たち民衆(信者)でも可能なものです。仏教における「布施」の構図を文章で少しばかり描いてみましょう。

信者さんが修行途上の僧侶に布施をする(ご飯でも、物でも、お金でも結構です)。施主はそれらのモノに対しての執着をなくす(「喜捨」)。頂いた僧侶はそれらのモノや施主によって、自分が生かされていると体感する(縁起)。僧侶が修行に励み、仏教の智慧を得て布施を行った信者さんに逆にその智慧を説いて差し上げる(「法施」)。

仏教の布施は1つの例えですが、このような良い循環をもたらす寄付(ドネーション)が成り立つならば、素晴らしいことでしょう。

委員会報告

ロータリーの友11月号

白鳥匡艶

特集記事「チャレンジ!グローバル補助金プロジェクト」10頁、柏南RCとケニア・ティカRCの支援事業に

次回の予定

クラブアッセンブリー

年次総会

次年度理事役員選出

ついて紹介されています。「出産医療施設の整備」を目的に、① 医療施設の整備、② 医療器具の寄贈、③ ドクター・スタッフの募集、④ スタッフのトレーニングなどを行い、母子に安全で標準的な出産環境を提供する活動されています。記事の中で、筆者である小林 亘氏は活動を振り返り良かったこととして、「ロータリアンとしての誇りを得たことです。」と語っています。同施設は、コロナ禍ではワクチン接種会場にもなり、出産施設としては既に200人以上の新生児を取り上げています。また他3RCの支援活動も紹介されています。19頁春日丘高校IACの活動内容が紹介されています。「目の前の人を笑顔に」をモットーに福祉施設や児童施設を訪問し、ボランティア活動をしており、中でも独自で企画した無料塾「みんなのひみつきち」では、高校生であるインターアクターが講師となり小中学生を対象に学習支援を行っております。今回さらなる支援強化を目的に、NPO法人「みんなのひみつきち」を設立し、理事長ら役員にインターアクターが就任したとの記事が紹介されています。

ニコボックス

近藤尚文

☆ 藤野直子君(名古屋名東RC)

本日はロータリー財団の卓話で伺いました。宜しく願い申し上げます。

☆ 佐々木久直君 鶴飼雅弘君

地区補助金委員会、藤野直子委員長をお迎えする喜びで。

☆ 足立 誠君 富田隆裕君

本日、地区補助金委員会委員長、藤野直子様にお越し頂いた喜びで。

出席報告

ビジター出席数	1名
現在の会員数	111名
本日の出席数	64名
前々回の出席率	100%

***** プログラム *****

ロータリー財団月間卓話

藤野 直子君(名古屋名東RC)

(地区補助金委員会委員長)

テーマ「財団をクラブ活性化に」

国際ロータリーは皆さまの会費で運営。ロータリー財団は、皆さまからの寄付のみで運営・活動。

寄付はすべて財団本部で管理。

昨年度は貴クラブより一人当たり年次基金 150.71ドル、ポリオプラス 30.85ドル、恒久基金 1000ドルをご寄付いただきました。本年度の地区のロータリー財団寄付目標は、年次基金おひとり 150ドル以上、ポリオプラスおひとり 30ドル以上、恒久基金は、クラブでベネファクター1名、または、1,000ドル以上です。

第3571回例会の記録 2023年11月16日(木)例会変更 夜間例会

ボジョレヌーボー解禁日に一宮商工会議所ビル3階大ホールにて、会員78名が参加・米山奨学生のレ・ティビック・ハンさんをお迎えし夜間例会が開催されました。

山上副会長の乾杯の発声で懇親会が始まり、ソムリエの青山紀子氏をお招きし、ボジョレヌーボーに関するトークをお聞きして、クイズ形式のゲームをし、優勝したテーブルの6名の方に記念品が青山氏から贈呈されました。今年のワインの出来を語り合いながら楽しいひと時を過ごし、佐々木会長エレクトの中締めで閉宴となりました。

シェアシステムの説明。財団に集まった寄付をロータリアンの奉仕活動を行う時には、みんなでシェアをしましょうということです。これによって大きな事業も可能。寄付は3年間投資され、その収益が財団の運営に活用プラスの時もあればマイナスの時もありますが、均すとしたい6%くらいの利益。

資金の50%が地区財団活動資金(DDF)残りの50%が国際財団活動資金(WF)この金額がそのまま戻ってくる訳ではなく使う権利があるということです。そのため地区補助金について地区は1ロータリー年度につき1回申請を提出することができ、残金はすべてグローバル補助金に充当します。毎年、当地区では年次基金寄付を約80万ドル集めていますが、昨年度は70万ドル。再来年 2025-26年度は、使えるお金が減ることになります。



来年度から各クラブ財団委員長が財団月間卓話のために2024年4月7日地区研修・協議会、2024年8月2日財団セミナーに加え10月頃に名古屋地区・西三河地区・豊橋地区それぞれ1回ずつ相談会を設けたいと考えています

ロータリーがポリオの根絶を目標に定めた時には、ポリオの根絶などは夢物語だと思われていました。しかし、1985年から「ポリオプラス」プログラムを開始し、1988年にはWHOと共に「世界ポリオ根絶推進活動」を立ち上げ、ポリオのない世界のために、先頭に立って活動してきました。こうした活動が実を結び、1988年に35万人いた感染者が激減しました。発生者が激減しても多大な寄付が必要な訳は、ひとりでも感染者がいたら、新生児4億人に必ず予防接種しなければいけません。ポリオワクチン予防接種はすべての国で行っています。

地区補助金は、地元や海外の地域社会のニーズに取り組むための、比較的規模の小さい、短期的な活動を支援する補助金です。来年2024-25年度は、2021-22年度の年次基金寄付額の23.75%が補助金申請可能額になります。クラブの拠出金は0でも構いません。

申請要件としては、ロータリー財団の使命に沿っていること、ロータリー会員が積極的に参加することが大切です。

2023年12月、次年度地区補助金事業の予定に関するアンケートを実施します。より大きな事業をやりたいと思うクラブには、使わないクラブの補助金枠を使えるようにしたいと思います。ただし、これは『共同事業』に限ります。委員会からはアンケート結果による情報はお伝えしますが、マッチングについては関与いたしません。お早めに2024-25年度の事業構想を練ってください。

最後に、クラブの活性化に、ロータリー財団を是非ご活用ください。そして、財団への寄付金のご活用がどのように使われているかご理解頂き、会員おひとりにつき、年次基金に150ドル以上、ポリオプラスに30ドル以上、さらに、1クラブにつき恒久基金に1,000ドル以上をご寄付くださいますよう、何卒、宜しくお願い申し上げます。



11/18(土) 地区補助金申請事業の子ども食堂開催